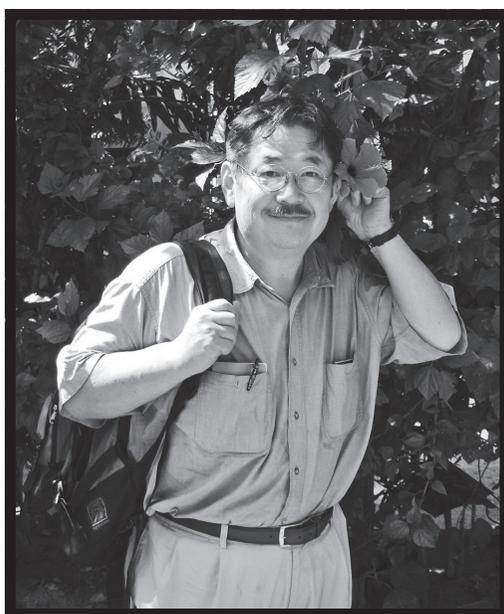


足立明教授の逝去を悼む

梶 茂樹

京都大学大学院

アジア・アフリカ地域研究研究科・研究科長



本研究科教授足立明氏が、去る平成 24 年 8 月 26 日、逝去された。享年 59 歳であった。8 月 26 日というのは、ちょうど私が会議で 1 週間カメルーンに出掛けていて、現地を立つ日であった。おかげでお通夜の参加はかなわなかったが、葬儀には間に合うことができた。お棺にはきれいな顔立ちの足立さんが横たわっており、亡くなったなんてとても信じられない気持ちであった。また 8 月というのは、あと 2 カ月で還暦というタイミングでの不幸であった。しかし、すでに赤いチャンチャンコを着て、還暦のお祝いは済ませてあったということだったので、ここは悲しむより、人生のひと巡りの旅を終えての新たな旅立ちと考えた方がいいのかもしれないと心を慰める。

足立明氏は、昭和 27 年に大阪府に生まれ、昭和 46 年大阪府立豊中高等学校を卒業後、京都大学に入学し、昭和 52 年工学部衛生工学科を卒業された。そしてスリランカのペラデニア大学大学院に留学し、昭和 61 年に同大学大学院社会学専攻修士課程を修了された。その後、

京都大学東南アジア研究センターの研修員を経て、昭和 64 年に北海道大学文学部助教授に就任された。そして平成 8 年には同学部教授に昇任された。この間、平成 2 年に京都大学より農学博士号を授与された。そして平成 12 年に京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授に就任されたのであった。

足立氏は、スリランカの焼畑農村や労働交換の研究や開発現象の研究、また文理の壁を超えて人・モノ・言葉のネットワークを考える方法としての「アクター・ネットワーク論」を巡る論考等を通して人類学と地域研究の進展に大きく貢献された。研究と教育に情熱を注ぎ、多くの人に愛された足立氏であるから、あの優しい顔立ちは、いつまでも同僚に、先輩に、そして後輩に刻まれ続けることと思われる。

それにしても、ご家族を後に残されての旅立ちは、ご遺族にとっては心のほり裂ける思いであつたらうとご推測すると同時に、ご本人にとっては、さぞかし無念のことであつたらうと推測する。とりわけ愛息の覚君は現在中学 3 年生で、これからの人であり、その成長を見届けたいという父親の気持はいかばかりであつたらうか。その気持を慮るに、無念さは胸に迫るものがある。

足立さん、あとは我々に任せて、安らかにお眠りください。ここに、足立明教授のご逝去に衷心より哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げる次第である。